

運送社長の
SIDE-B
知られざる側面

幼少期はピアノを習い、学生時代はバンド活動でドラムやギターに打ち込んできたセイリョウライン（愛知県大府市）の幣旗貴行社長。人前で歌うことも大好きで、「音楽は国境を越えた言語であり、楽器や声は自分らしさを表現でき

「バイオリン始めました」
セイリョウライン 幣旗貴行社長



練習場所は自宅リビング

るアイテム。楽器（音楽）のない人生は考えられない」と熱意を込めて語る表情からは、感性の鋭さを感じさせる。

そんな幣旗社長がこの春、初めて手にとった楽器がバイオリンだ。かねてX JAPANのSUGIZO氏が奏でるバイオリンの音色に感銘を受けていた同氏の心に、とどめを刺したのは阿久井真原作のアニメ「青のオーケストラ」。主人公が演奏するパッヘルベル作曲の「カノン」に衝撃を受けてのことだ。「一夜も練習できないように」と、購入したのはエレキ

バイオリン。これまでの演奏経験で読譜力を養っていることから独学で始め、「飲んで帰っても、毎日5分でもいいから触るようにしている」と話す。練習開始から数か月とはいえ、構える姿勢はそれらしく、中学の部活動でピオラを担当する娘さんからも、「始めたばかりにしてはうまい」とお墨付きをもらっている。

「人前でかっこよく弾けるようになりたい」と上達を目指し、日々練習を重ねている幣旗社長。現在の課題はビブラートの精度を高め、表現力豊かに音を出すことのようなだ。「いつか娘と一緒に『カノン』を弾けたら…。そんな夢も、遠くはないのかもしれない。」

（富田 香）
（レイアウト・卓瀬勇一）